

(添付ファイル 第8号様式)

平成28年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を進める社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
目標年	用地費	進捗率										
かんがい排水事業	1	宮川4工区	伊勢市	②	<p>【全体事業概要】 農業用用水路工 管水路 L=11,275m</p> <p>【事業目的】 本地区の施設は、昭和32年度に着工された国営宮川用土土地改良事業の下流幹線水路として、伊勢市の農地611.4haを灌漑する県営事業により整備された総延長約15.7kmの農業用水路です。建設から約40年近くがたち、施設の老朽化により、漏水などが発生し、維持管理に多大な時間と費用を要していました。このため、国営造成施設(国営宮川用水第二期事業)と一体的に改修することとし、パイプライン化による国営施設と連動した水管理システムを採用し、安定した農業用水供給と維持管理の省力化を図るため、平成18年度に事業に着手しました。</p>	H18	5,339	52.6%	<p>【整備済み内容】 農業用用水路工 管水路 L=5,796m</p>	<p>【社会経済情勢の変化】 高齢化や人口減少の進行、TPPなどの世界の食料需給をめぐる環境変化や消費者ニーズの変化などに対応するため、国は平成27年3月に新たな「食料・農業・農村基本計画」を策定するとともに、平成28年8月には新たな「土地改良長期計画」を策定しました。その中で「豊かで競争力ある農業」を政策課題の1つとし、「高収益作物への転換による所得の増加」、「担い手の米の生産コストの大幅削減」を達成すべき重点目標としています。 三重県では、平成28年度から4年間を目標とする「みえ県民カビジョン第二次行動計画」を策定し、持続性の高い「もうかる農業」を実現するため、「三重県農業農村整備計画」に基づき、農業者が農業を継続できる生産基盤の整備を計画的に進めることとしています。</p>	<p>【費用対効果分析】 B/C = 1.02</p> <p>【営農事業効果を取りまく情勢の変化】 三重県において、農業就業人口は平成17年から10年で約40%と急激に減少しており、また農業就業人口の年齢別構成割合は、60歳以上の農業就業人口が86.5%を占め、農業に携わる方々の高齢化が進んでいます。また一方で、5ha以上の耕作を行う農業経営体数は増加しており、特に10ha以上の農業経営体数は平成17年から10年で約2倍と農地の集約化が進んでいます。これらを受けて、農業就業人口の減少や高齢化、農地の集約化に対応するため、維持管理や水管理の省力化がますます必要となっています。</p>	引き続き事業の進捗を図り平成32年度の完成を目指します。
						5	5,069	50.7%				
						H32	270	37.4%				

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成28年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
目標年	用地費	進捗率										
下水道事業	8	北勢沿岸流域下水道(南部処理区)	四日市市、鈴鹿市、亀山市	③	<p>【全体事業概要】 計画区域面積:6,854.0 ha (四日市市749.0ha、鈴鹿市4,429.0ha、亀山市1,676.0ha) 計画処理人口:228,621人 (四日市市20,107人、鈴鹿市168,000人、亀山市40,514人) 流域幹線延長:39.4km 計画汚水量:135,997m³/日最大 終末処理場:1箇所</p> <p>【事業目的】 伊勢湾をはじめとする公共用水域の水質保全と汚水排除による生活環境の改善に資するものである。</p>	S62	299,012 (流域下水道: 114,011) (流域関連公共下水道: 185,000)	62% (流域:59%) (流関:63%)	<p>【整備済み】 (流域下水道) 処理能力:64,600m³/日 幹線管渠延長:39.4km (流域関連公共下水道) 計画区域:3,186ha</p> <p>【残計画】 (流域下水道) 処理能力:71,400m³/日 幹線管渠延長:0km (流域関連公共下水道) 計画区域:3,668ha</p>	<p>【全体計画】 近年の社会経済情勢や周辺環境の変化等にあわせ、平成28年度に全体計画の見直しを行っている。</p>	<p>【費用対効果分析】 B/C=1.8</p> <p>【コスト削減】 計画の策定及び工事の実施にあたっては以下のようなコスト削減の取り組みを行ってきた。今後も「三重県公共事業コスト構造改善に関する第4次行動計画」に基づき、更なるコスト削減に努めたい。</p> <p>I 工事コストの改善 II 時間的コストの改善 III ライフサイクルコストの改善 IV 社会的コストの改善 V 長期的コストの改善</p> <p>【代替案の検討】 下水道に代わる汚水処理の整備手法には、農業集落排水施設、漁業集落排水施設、コミュニティ・プラント、浄化槽がある。 経済比較を行った上で、地域の地形条件、市街地の形成状況、社会情勢等を考慮した結果、下水道による整備が最適である。</p>	<p>関連市の下水道整備による処理場への流入水量の増加にあわせて段階的に処理施設の増設を行う。</p>
						S	277,200 (流域下水道: 105,524) (流域関連公共下水道: 171,676)	61% (流域:57%) (流関:63%)				
						H65	21,812 (流域下水道: 8,487) (流域関連公共下水道: 13,324)	71% (流域:76%) (流関:68%)				

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間を経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成28年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年 S 目標年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
				用地費	進捗率							
下水道事業	9	中勢沿岸流域下水道(志登茂川処理区)	津市	③	<p>【全体事業概要】 計画区域面積:2,570.0ha (津市2570.0ha) 計画処理人口:82,810人 (津市82,810人) 流域幹線延長:27.8km 計画汚水量:49,883m³/日最大 終末処理場:1箇所</p> <p>【事業目的】 伊勢湾をはじめとする公共用水域の水質保全と汚水排除による生活環境の改善に資するものである。</p>	H9	144,850 (流域下水道: 62,690) (流域関連公共下水道: 82,160)	32% (流域:53%) (流関:16%)	<p>【整備済み】 (流域下水道) 処理能力:0m³/日 幹線管渠延長:25.1km (流域関連公共下水道) 計画区域:392ha</p> <p>【残計画】 (流域下水道) 処理能力:49,900m³/日 幹線管渠延長:2.7km (流域関連公共下水道) 計画区域:2178ha</p>	<p>【全体計画】 近年の社会経済情勢や周辺環境の変化等にあわせ、平成27年度に全体計画の見直しを行っている。</p>	<p>【費用対効果分析】 B/C=1.5</p> <p>【コスト削減】 計画の策定及び工事の実施にあたっては以下のようなコスト削減の取り組みを行ってきた。今後も「三重県公共事業コスト構造改善に関する第4次行動計画」に基づき、更なるコスト削減に努めたい。</p> <p>I 工事コストの改善 II 時間的コストの改善 III ライフサイクルコストの改善 IV 社会的コストの改善 V 長期的コストの改善</p> <p>【代替案の検討】 下水道に代わる汚水処理の整備手法には、農業集落排水施設、漁業集落排水施設、コミュニティ・プラント、浄化槽がある。 経済比較を行った上で、地域の地形条件、市街地の形成状況、社会情勢等を考慮した結果、下水道による整備が最適である。</p>	<p>関連市の下水道整備の進捗にあわせて幹線管渠の整備を行うとともに、処理場への流入水量の増加にあわせて段階的に処理施設の増設を行う。</p>
						S	131,996 (流域下水道: 61,158) (流域関連公共下水道: 70,838)	33% (流域:52%) (流関:17%)				
						H59	12,854 (流域下水道1,532) (流域関連公共下水道11,322)	26% (流域:99%) (流関:16%)				

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要性が生じた事業

(添付ファイル 第8号様式)

平成28年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
						目標年	用地費	進捗率				
街路事業	10	松阪公園大口線外1線	松阪市	③	<p>【全体事業概要】 延長 L=820m 幅員 W=16.0m(一般部)</p> <p>主要構造物 踏切アンダーパス1基</p> <p>【事業目的】 当該事業は、鉄道交差の立体化により踏切を解消し、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、歩行空間の整備を行い、歩行者自転車の安全の確保を図ります。 また、災害時の緊急輸送に重要な役割を果たす緊急輸送道路としての機能強化を図ります。</p>	H14	10,100	96.0%	<p>① 平成27年度末の事業進捗率は、事業費ベースで96%(工事94%、用地99%)となっています。</p> <p>② 平成28年3月に鉄道立体交差化(アンダーパス)工事が終了し、全体延長820mのうち約290mが完成供用しています。</p>	<p>・「松阪市都市計画マスタープラン(H20.3)」において、市内の交通流動の円滑化を担う幹線道路として位置づけられています。</p> <p>・「松阪市交通バリアフリー基本構想」において、重点整備地区の特定経路に設定されており、安全な通行環境の確保及び中心市街地の活性化の観点から、当該事業の必要性は高い状況にあります。</p> <p>・東日本大震災や熊本地震の発生により、緊急輸送道路の役割が再認識されています。</p>	<p>【費用対便益分析】 B/C=1.1</p> <p>【コスト削減】 ・LED道路照明の導入について検討を行った結果、従来の水銀灯やナトリウム灯よりライフサイクルコストに優れたLED道路照明を施工しました。</p> <p>・現場から発生する残土について、他工事へ流用を行いました。</p> <p>【代替案】 現在の事業進捗状況から代替案はありません。</p>	平成31年度の全線完成に向け事業を推進します。
						~	5,910	94.0%				
						H31	4,190	99.0%				

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

(添付ファイル 第9号様式)

平成28年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						H17	H17					
						最終	最終					
道路事業	504	主要地方道鳥羽松阪線(榎田橋工区)	松阪市	<p>【全体事業概要】 延長 L=1.5km 幅員 W=14.0(26.0)m</p> <p>主要構造物 榎田橋(L=279m)</p> <p>【事業目的】 交通渋滞緩和により円滑な交通を確保するとともに、老朽化した榎田橋の架け替えにより安全性を確保することで緊急輸送道路としての機能強化を図るものです。</p>	H8	H17	H17	<p>【費用便益比】 B/C=2.2</p> <p>【その他の効果】 当該事業区間の4車線化とともに、老朽化した榎田橋の架け替えにより、緊急輸送道路としての機能を強化しました。</p>	当該事業による交通渋滞の緩和等により、CO ₂ (二酸化炭素)排出量が削減されました。	県道松阪環状線が平成18年度に整備供用され、国道42号松阪多気バイパスが現在国交省において整備中です。そのため、当該路線に接続する幹線道路の整備が進み、幹線道路ネットワークを完了させることで、松阪市内における渋滞解消効果が期待されています。	アンケートの結果、満足とを感じる項目については、「歩道が広くなり、安全性が向上した」が最も多く、次いで「渋滞が緩和され、快適に走行できる」となっています。一方、不満とを感じる項目については、「完成までに長期間を要した」となっています。	「完成までに長期間を要した」との回答については、今後事務所内の各課が連携し、事業進捗の早い段階で一人でも多くの関係者に事業の必要性に対するご理解をいただけるよう、わかりやすい説明に努めてまいります。また、「4車線化による走行環境の向上により、スピードを出す車が増え、交通事故の危険性が増加した」等の意見については、警察とも連携し標識等の設置によりドライバーへ注意喚起を検討していきます。
						H22	H22					

※再評価実施事業は「前回」とし、再評価時の値を記載する。それ以外は「当初」とし、当初計画時の値を記載する。

